



あけましておめでとうございます。お正月はどのようなお食事を楽しまれたでしょうか。ハレの日を祝う食文化は、日本が誇るべき伝統であり、次世代にもぜひ引き継いでいただきたいと願っております。しかしながら、正月は普段よりも食事量が増え、座って過ごす時間が長くなるため、運動量が減少し、食事時間や就寝時間といった生活リズムが崩れがちになることが多いのも事実です。学校給食としては、生徒の日常の食事（ケの日の食事）を支える役割を果たし、今年も地味ながらも大切なことを守っていきたくて考えております。本年もどうぞよろしくお願いたします。

(NHK『おむすび』に影響されて)

現在NHKの朝ドラで放送されている『おむすび』を毎日録画しながら観ています。神戸が舞台となっており、阪神淡路大震災の出来事を風化させないために1月17日に炊き出しをするという話がありました。その場面で提供された「わかめおにぎり」と「ツナさばけんちん汁」は番組スタッフが実際に作ってもらえるように考えたとありましたので、本校の給食でも挑戦してみることにしました。生徒のみなさんに少しでも自然災害や被災生活を自分事として考えてもらえることを期待します。(当時私は大阪の小学校に通っており、あの日は地震で起きました。TVをつけ各地域の震度が「3~5」と表示されていたのが、少し時間が経った後、突然兵庫だけ赤字で「震度7」に変わったのを今でも覚えています。)

## 全国学校給食週間



1月24日から30日までは全国学校給食週間です。学校給食の意義や役割についての理解と関心を深め、学校給食のより一層の充実と発展を図ることを目的に行われています。

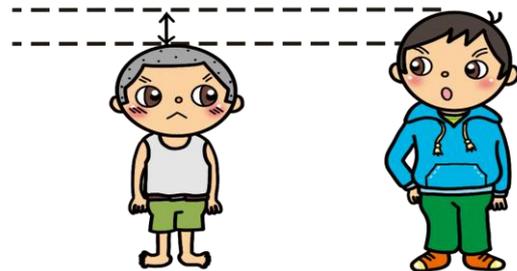
昭和20(1945)年、戦争が終わったばかりの日本では食料が不足し、栄養不足の子どもたちがたくさんいました。給食も戦争で中断されたままでした。



この日本の様子を見て、外国から食べ物の援助がたくさん送られてきました。こうして昭和21(1946)年12月24日、学校給食がふたたび始まりました。



そのころの小学6年生の体は、今の小学4年生くらいの大きさだったといえます。



12月24日は学校が冬休みなので、1ヵ月遅らせた1月24日から「全国学校給食週間」が行われます。給食に感謝し、その意義と役割を再確認する1週間です。



